# 愛の手であなたをつつむ 被害者支援 会報 多くしまの空

発行 社団法人ふくしま被害者支援センター 〒960-8002 福島市森合町 14-6 第三福島トヨタビル2F 事務局 TEL&FAX 024-533-7830

#### 避難所内に「被災者支援相談コーナー」設置

専務理事 廣 木 康 二

さる3月11日に発生しました「東日本大震災」は、本県にも大きな被害をもたらしました。本県では、加えて原子力発電所事故に伴う放射線被害が発生し、多くの県民の皆様に多大な困難と困惑を与えています。

この災害において不幸にも犠牲となられた方には、心からお悔やみを申しあげます とともに、被災されました方々に対しましては、心からのお見舞いを申し上げます。

また、長年住み慣れた自宅や地域を離れ、やむなく避難生活をせざるを得なくなられた多くの方々に対し、改めてそのご心痛にお慰めを申し上げます。



私ども、社団法人ふくしま被害者支援センターでは、犯罪被害者等支援で培ったノウハウを駆使することにより、何かと不自由な避難生活を余儀なくされている皆さんの気持ちを和らげ、明日を考える力を取り戻すことができるようお手伝いができるのではないかと考え、避難所内に「被災者支援相談コーナー」を設け相談活動を行っているところであります。

ところで、当センター4年目の昨年(平成22年)度の活動は、支援活動員の皆さんの真摯な協力を得て、前年を上回る案件に取組み、被害者等支援活動に相応の成果を上げることができたと思っております。

電話相談や面接相談及び直接的支援活動からの率直な感想を述べますと、近頃においては女性の性被害事 案が多いと感じております。性被害はどうしても潜在化する傾向にありますが、被害者の権利を守り被害を 回復するには、当事者にとっては大変につらい事情もあるとは思いますが、被害の事実を顕在化させ、社会 や地域全体で取り組むべき課題であると考えております。

「魂の殺人」ともいわれる性被害の悲惨さを想う時、あらゆる方法を講じて被害そのものを「ゼロ」にしたい、そして不幸にして被害を受けた人にとっては、当センターが「助けを求めることができる」「相談ができる」と信頼される場所の一つでありたいと願っております。

今年度においては、より適切な支援・相談活動を実現するための教養訓練を継続するほか、新規支援活動 員の養成にも力を入れて参りたいと考えておりますので、ご理解のうえご協力をいただきますようお願い申 し上げます。

最後になりましたが、今回の大災害に関しまして、NPO法人全国被害者支援ネットワークの皆様はじめ全国の被害者支援センターの皆様からは、多大なお見舞いや激励をいただきありがとうございました。同じ活動をする全国の仲間からの応援であることが、どれほど大きな勇気と力を与えてくれたことか、計り知れないものがあります。本当にありがとうございました。

\*被災者支援相談コーナーは、1日2名体制で福島市のあづま総合体育館において、当面は8月末日までの活動を行うこととしております。

# 平成23年度 第1回理事会・通常総会を開催

平成23年6月14日(火)、ホテル福島グリーンパレスにおいて、理事会と通常総会を開催しました。

本総会では、公益社団法人への認定移行を踏まえた理事2名の増員を内容とする定款の一部改正、役員の選任のほか、平成22年度事業報告、平成22年度収支決算報告及び犯罪被害相談員任用について審議され、5議案ともすべて承認されました。

審議終了後、事務局から次の2点について報告が行われました。

第 1 点は、4 月11日に避難所ロビーに「被災者支援相談コーナー」を開設しての支援活動の状況について詳細な説明が行われました。

第2点は、当センターに対し関係機関・団体から義援金が贈られたことについての説明が行われました。

(P.4 参照)

#### 役員の選任

公益社団法人への移行認定を踏まえ、次の役員体制としました。

役職名	氏	名	現	職	名	役耳	敞名	氏	名	現	職	名	
理事長	岩﨑	稠	医療法人篤仁	.会	富士病院院長	理	事	松原	正明	福島民友新	聞社役員	員待遇総務	局長
副理事長	生島	浩	福島大学大学院	人間多	<b>论</b> 達文化学類教授	理	事	我妻	秀一	福島民報社	総務部	長兼管理	部長
副理事長	澤井	功	澤井法律事務	所所	長(弁護士)	理	事	酒井	芳子	福島県臨床心	理士会被'	害者支援担	当理事
理事	金子	與宏	財団法人福島	県自真	動車会議所会長	理	事	羽田	幸弘	福島県商工会議	听連合会(社	福島商工会議	听理事)
理事	東城	輝夫	福島県弁護士会	犯罪被	害者委員会委員長	理	事	阿久海	聿文作	福島県商工	会連合	会専務理	事
理 事	佐藤	健介	福島トヨタ自動	動車㈱	代表取締役社長	理	事	高山	隆	福島経済同	友会事	務局長	
理 事	庄條	德一	JA福島中央会	会会是	ŧ	専務	5理事	廣木	康二	(社)ふくしま	被害者才	支援センタ	<i>'</i> —
理事	熊倉	徹雄	福島県精神科	卜病院	協会会長	監	事	安斎	勇雄	安斎会計事	務所所長	長(公認会	計士)
理 事	遠藤	道雄	福島県被害者等	等支援	養連絡協議会会長	監	事	石井	一彰	東邦銀行総	務部長		
理 事	鈴木	長司	福島県精神保	<b>尺健福</b>	祉士会会長								

#### 平成22年度事業報告

#### ○電話相談等取扱状況

平成22年度における電話相談、面接相談及び裁判所公判付添、病院付添等の直接的支援の取扱件数は、次表のとおりです。なお、一人の相談者に対し最も多い相談(支援)回数は、電話相談で12回、面接相談で6回、直接的支援で7回となっており、被害者等の受けた"心の被害がいかに大きかったか"ということを思い知らされたように感じました。

		計								
相談種別	犯罪被	害関係	交通事	故関係	その	D他	] <u>=</u>			
	件	件人		人	件	人	件	人		
電話相談	68	37	35	16	33	30	136	83		
面接相談	19	9	3	3	2	2	24	14		
直接的支援	14	5	11	5	2	1	27	11		
その他	2	1	2	1	0	0	4	2		
計	103	52	51	25	37	33	191	110		

※相談種別の「その他」は、文書等による相談件数です。

#### ○講演会等の開催状況

- ・自治体及び関係機関・団体からの要請により「被害者支援出前講座」、「被害者支援地区ネットワーク総会」、「防犯活動団体地域交流会」など21回、延べ1,278人の参加者を得て、講演会を開催しました。
- ・平成22年度に初めて取り組んだ事業として、福島刑務所長の要請により4回、延べ40人の受刑者に対し、また、福島保護観察所長の要請により1回、3人の入所者に対し、それぞれ矯正教育の一環として 講座を開催しました。

#### ○広報啓発活動状況

- ・県警察との共催事業として、県内の大学校、高校、専門学校及び中学校を対象に、26校、延べ8,076人の参加者を得て「命の大切さを学ぶ授業」を開催したほか、県内8カ所延べ2,410名の参加者を得て「被害者遺族講演会」を開催しました。また、県文化センターにおいて約350人の参加者を得て「支援の輪を広げるつどい」を開催しました。
- ・犯罪被害者週間(11月25日から12月1日)の期間中、JR福島駅前及びJR郡山駅前広場において、「全国被害者支援基金」設立に向けた街頭募金活動を行い、浄財26,579円が寄せられました。

市民の皆様のご支援、ご協力に対し、心より感謝を申し上げます。

#### 平成22年度収支決算報告

平成22年度から、一般会計の他に大規模支援に充当するための「特別会計」を設けております。なお、平成22年度中に一般会計と特別会計との間に資金の流用はなく、更に、特別会計の支出はありませんでした。

#### ○一般会計

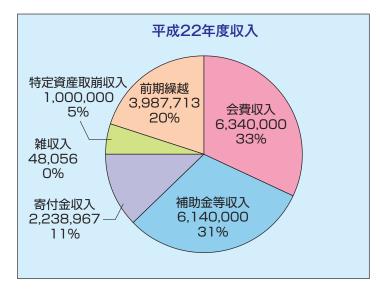
	平成22年度収支決算(円)											
-												
収	会	費収入	6,340,000									
	補	助金等収入	6,140,000									
	寄	付金収入	2,238,967									
	雑	収入	48,056									
	特別	官資産取崩収入(積立預金収入)	1,000,000									
	前	期繰越	3,987,713									
		計	19,754,736									
支出	事	共通事業費支出	2,860,328									
出	業費	相談業務支出	1,127,062									
		直接支援支出	443,267									
		自助グループ支援事業支出	171,190									
		広報・啓発支出	2,889,435									
		講演会開催事業費	483,565									
		教養・研修支出	1,073,541									
		関係機関関連支出	227,939									
		調査研究費支出	107,680									
	管理費	人件費支出	2,152,949									
	費	管理事務費支出	2,089,337									
		計	13,626,293									
		残高	6,128,443									

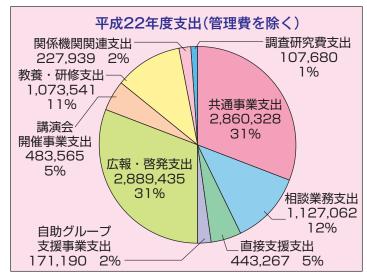
※残高は一般会計次年度へ繰越しました。

#### ○特別会計

予 算	1,500,000
支 出	0
残高	1,500,000

※残高は特別会計次年度へ繰越しました。





# [3.11東日本大震災」被災者支援への取組み

#### 1 あづま総合体育館避難所に「被災者支援相談コーナー」を開設

当センターの持つ「犯罪被害者等支援のノウハウ」を生かし、避難者の 方々の気持ちをいくらかでも和らげ、平静を取り戻し、明日を考える力を 少しでも得ることのできるようお手伝いすることができないかとの考え から、あづま総合体育館避難所において実施することとしました。

関係機関と調整のうえ、震災1ヶ月後となる4月11日(月)から、祝祭日を除く平日10:00から16:00の間、毎日2名づつ派遣し、「被災者支援相談コーナー」を開設・支援活動を行っております。なお7月及び8月は、祝祭日を除く月曜日、水曜日及び金曜日を開設日としています。

これまでの相談内容は、家族等の被害、放射線被害、教育問題、行政への 不満等、極めて多岐にわたりますが、「ここでは何でも聞いてくれるから、 気持ちが楽になれる。」「ここでお茶を飲めて、ホッとする。」「別の避難所 にも来て欲しい。」等の言葉もあり、「被災者支援相談コーナー」の存在が 避難者の方々から認められていると同時に、求められていると感じてい る今日この頃です。

#### 2 NPO法人全国被害者支援ネットワークから「災害活動義援金」を受領

この度の「東日本大震災」に際し、NPO法人全国被害者支援ネットワークの提唱により、全国の被害者支援センターからのカンパによる「災害活動義援金」24万円が贈られました。

志を同じくする全国の仲間に感謝しながら、今できることを精一杯頑 張っていきたいと考えております。

また、韓国犯罪被害者支援連絡会から友好団体であるNPO法人全国被害者支援ネットワークを通じて義援金が寄せられ、当センターには40万円が配分されました。当面、あづま総合体育館避難所で開設している「被災者支援相談コーナー」の運営に要するレンタカー借り上げ料、茶菓子代等に充当することとしております。

さらに、福島県知事宛に70万円の義援金が贈られました。

#### 3 「被災者支援相談コーナーの活動に従事して」の感想文

支援活動に従事した支援員の感想です。 それぞれの想いを受け取っていただければ幸いです。



~相談コーナー表示板~



~相談コーナー風景~



知事宛義援金を県保険福祉部緑川茂樹次長に手渡す廣木専務理事

#### 「被災者の方々に寄り添う」の思いを持って

支援活動員 男性M·I

支援相談をする当日まで、自分は何をする事が出来るかで不安でした。結局、被災者の方々のお話を傾聴する ことに専念していこうと決めて臨みました。

相談内容は多種多様にわたり、一人で不安、悩み、不満を抱え難儀している状況は、当支援センターでの相談者の方々と全く同じ状態でありました。

天災、原発、風評等の被害に加え、避難所生活での人間関係、家族との離散等の生活環境の激変、将来への不安 にストレスは増長され、怒り、諦め、虚脱の状態となっている姿が明確に見えました。

このような状態は、被災者間の慰め合いでは決して癒されるものではなく、又、避難所にある各救援施策(医療、法律等)では、総合的立場でのフォローではないこともあり、被災者の方々は不合理性、不便性、不十分性を強く感じ、悶々とした生活を余儀なくされていたと実感しました。

被災者の方々の話を十分に聞き、その状況に応じた情報の提供と必要であれば専門家への照会、更に帯同行動が大切だと思われます。被災者の方々は、今を生きる(平常の生活が出来ること)、今から生きる(明るく希望のもてる生活が出来ること)を求めていることを痛感しました。その意味で、今回の当支援センターの参加は、温かい飲み物、話し合う場所、話しを聴いてくれる人、各専門家にコーディネート出来る人を提供でき、有意義で存在価値が発揮されたものと考える次第です。後で、相談に来た方々から「仕事が見つかったよ」「血圧が下がったよ」「寝ることが出来るようになったよ」等々の報告を聞くことが出来ました。

#### 被災者に寄り添う心を学ぶ

支援活動員 女性K·K

私たちの活動の初日である4月11日は、大震災からひと月の追悼が行われた。

避難所には、沢山の花が係やボランティアの手によって生けられた。午後2時46分、居合わせた人全員が静かに合掌した。一人ひとりの胸中に去来するものが・・・・・。

翌5月11日、ふた月目の追悼の日、天皇・皇后両陛下が被災者の方々を御見舞いに訪ねられた。慈愛に満ちた両陛下のお言葉は、長びく避難生活に疲れきった被災者の方々の心に染み透り、光の見えない福島の苦悩(地震・津波だけでなく原発事故で故郷に帰れない)を癒してくださったと思う。両陛下の帰られた後の被災者の方々の明るい表情が印象的であった。

両陛下は、私たちに寄り添うことの神髄を教えてくれた。3月、天皇陛下は「大勢の被災者、苦しんでいる人たちがおり、電源すらない人もいる。私の体調を気遣ってくれるのはありがたいが、寒いのは厚着をすればいいだろう。」(3/25付朝日新聞)と自主節電を続けられた・・・、被災の惨状を悼み、被災者の方々の心に寄り添っておられたのだと強く感じた。

私は、避難所での被災者の方々の辛い体験を聴き、言葉を失うこともあった。

被災者の手を握り、肩を抱き、温かいお茶を差し出すことしかできなかった。

今後、被災者の方々の生活再建への道のりは、遠く、険しいものであると思う。

私たちにできることは、いつも被災者の方々のことを想い、忘れないで生活をすることだと思っている。

#### 温かいお茶を添えて

支援活動員 女性A·S

支援コーナー設置の初日と2日目に、体育館へ参りました。はたして私たちに何ができるのかわからない、不 安を抱えてのスタートでした。

でも、私たちにできることがきっとあるはずと信じ、全国被害者支援ネットワークから送られた「災害時の支援の手引き」と、センターでまとめた行政の担当部局の連絡一覧を携えて担当コーナーに座ったのです。

最初はこちらから声を掛けて、「座ってお茶だけでも飲んでいきませんか。」とお誘いしました。当初「何も話したくない。」と言われた男性も、何度か顔を合わせるうちに、「家族と家を津波に流され、原発で家に帰れない。」と、少しずつ話をしてくださるようになりました。今では、私たちを待っていて下さる方たちもいます。

また、まだ避難所に1千人を超える方がひしめいていた4月の夕暮れのことでした。介護士だった女性が、ボランティアとして会津から施設利用者を訪ねて来られました。どうぞあなたも休んでくださいと座っていただいたところ、「家族と連絡が取れなかった義弟は、家族が津波で全滅し一人残されたと悲観して、自殺してしまった。家族を探し歩いていた義弟がどんな気持ちでここの避難者名簿を見たのか。」と、静かに涙を流されました。その方自身も原発事故で介護施設の利用者と猪苗代に避難し、保育所に通っていた娘さんとご主人が会津に避難し無事だったことを知ったのは、被災から1週間も後のことだったのです。

私たちのコーナーでは、被災者の方々へ情報提供も行っています。しかし、今必要とされていることは、温かいお茶を飲みながら、ひと時の日常を取り戻すお手伝いだと感じています。

# 福島県立図書館において"被害者支援パネル展"を開催

当パネル展は、福島県立図書館の全面的協力をいただき、県警察との共催により、社会全体で犯罪被害者等を支え、地域社会が一丸となって犯罪と対決する気運を醸成し、犯罪や交通事故のない安全で安心な地域社会を実現するため、被害者支援に対する民の理解を求め、社会全体の規範意識の向上を図ることを目的に県立図書館ロビーを展示場として、2月26日(土)から4月6日(水)までの40日間の日程で開催することとしました。また、開催に当たり被害者支援関連図書の市販本40冊を県立図書館に寄贈したほか、全国の関係被害者支援センターのご協力により送付して頂いた「犯罪被害者の声」「ご遺族の手記」等の手記を展示し、来館者に貸し出すこととしました。

ただ、残念なことに、3月12日(土)には隣接する県立美術館講堂(250名収容)において、交通事故遺族講演会を柱とした「被害者支援講座」を開催することとしておりましたが、3月11日(金)に発生した東日本大震災のために中止となりました。

今回の催事は、震災のために途中で頓挫しましたが、後日「被害者支援関連図書の貸し出しが順調であった。」との関係者の話を聞き、とても残念に思いました。

現在、県立図書館は建物が損壊し休館となっておりますが、復旧後には、県内27カ所の市町村立図書館での「パネル展・被害者支援講座」開催の実現に向け、関係者と協議していきたいと考えております。



~パネル展風景~



~寄贈図書等展示状況~

# 募金活動

当センターは、事業活動経費の概ね2/3が、皆様からの会費、寄付金より運営されております。 今後とも、被害者支援の大切さをご理解いただき、活動資金面からの支援援助をお願いいたします。 平成22年度11月以降の募金及び寄付をお寄せいただいた主なものは、次のとおりです。





~街頭募金活動風景~

#### 街頭募金活動

平成22年度の「犯罪被害者週間(11月25日~12月1日)」における広報・啓発活動と合わせて「全国被害者支援基金」設立に向けた街頭募金活動を行いました。延べ23名の支援活動員が参加し、JR福島駅東口広場及びJR郡山駅中央広場において、延べ4日間の募金活動でした。

活動は、ハンドマイクによる通行人への呼びかけと両面刷りのチラシ2,000枚(表「犯罪被害者週間の広報」、 裏「オウム真理教犯給法の申請期限広報」)、テッシュペーパー2,000枚(当センター標語入り)及びNPO法人全 国被害者支援ネットワークから仲介していただきました試供品(ユースキン)をセットにして通行人の方々へ の配布を行い、「犯罪被害者週間」の周知と「全国被害者支援基金」設立への募金を呼びかけました。

4日間とも天候には恵まれましたが、風が強く、初冬の寒さが身にしみる風の中で、市民の皆様の心温まる 浄財26.579円が寄せられました。

寒空の中、募金をいただきました市民の皆様に心より感謝を申し上げます。

寄せられました浄財は、「全国被害者支援基金」設立に向けての原資の一部として、NPO法人全国被害者支援ネットワークに送金をいたしました。

#### |福島県遊技業組合等からの寄付|

福島県遊技業協同組合及び地区遊技場組合から、当センターの活動趣旨に賛同なされ、支援活動に役立てていただきたいと寄付の申し出がありました。

寄付金の贈呈式は次の日程で執り行われ、当センターを代表して専務理事廣木康二が受領しました。寄せられました寄付金は、今後の各種支援活動に生かしたいと考えております。関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。

- ア 郡山北地区での贈呈式
  - 日 時)平成22年12月27日(月)午後1時から
  - 場 所)郡山北警察署署長室
  - 贈呈者)郡山遊技場組合 組合長代行兼事務長 鎌田 博之氏
  - 寄付金)10万円

- イ 郡山地区での贈呈式
  - 日 時)平成22年12月27日(月)午後2時から
  - 場 所)郡山警察署署長室

贈呈者)福島県中央遊技業協同組合 理事長 野田 浩氏

寄付金)10万円

- ウ 田村地区での贈呈式
  - 日 時)平成23年2月9日(水)午後2時から

場 所)田村警察署署長室

贈呈者)福島県中央遊技業協同組合 理事長 野田 浩氏

田村地区遊技場組合 組合長 橋本 仁美氏

寄付金)10万円(各5万円)

#### 警察署窓□募金

犯罪被害者支援に対する募金活動の一環として、県内22警察署7分庁舎の窓口に「募金箱」を設置し、来庁する県民の皆様からの支援をお願いしておりました。

年度末、関係警察署に対し被害者支援に関するご支援・ご協力の御礼と、自助グループ活動への参加依頼等 の広報活動とともに募金の回収を行いました。

集計の結果、112、242円の募金が寄せられておりました。

県民の皆様の温かい志に対し、心より御礼を申し上げます。

# "被害者支援出前講座"の開催状況

被害者支援出前講座は、当センターの存在と活動内容を多くの市町村民の皆様に知っていただき、「被害者等を理解し、支えあう地域の環境づくり」と「被害者支援に対する市町村民の皆様の積極的な協力確保」を目指し、地域密着型の出前講座として開催しております。

出前講座は、町内会、地域グループ等の一般住民の方々や会社事業所、工場等で、概ね40名規模の集まりを対象に開催しております。

出前講座をご希望の方は、是非ご連絡ください。

なお、平成22年11月以降の出前講座の開催状況は、次の通りです。

(1)会津若松市交通安全市民大会での交通事故遺族講演会(平成22年11月5日開催)

会津若松市交通対策協議会(会長:菅家一郎市長)からの要請により、市民の交通安全意識の高揚と安全安心なまちづくりを目的として開催されます第6回会津若松市交通安全市民大会において、交通事故被害者遺族である岡崎照子氏が講師となり、約1時間にわたり200名の関係者に対し講演を行いました。

(2)防犯活動団体地域交流会での講習会(平成22年11月16日~26日の間の6日間開催)

県及び県警察の共催により、県内6方部において、地域の防犯ボランティア団体、犯罪被害防止アドバイザーの活動者790名に対し、延べ6日間にわたり廣木専務理事が講師となり、被害者支援の必要性、現状等について、約30分間の講義が行われました。

(3)平成22年度福島県交通教育専門員連絡協議会研修会での講演会(平成22年11月18日開催)

県交通教育専門員連絡協議会(事務局:二本松市市民部生活環境課市民生活係)からの要請により、ルネッサンス棚倉(東白川郡棚倉町)において、廣木専務理事が講師となり、県内の「交通教育専門員」約200名を対象に、「交通事故被害とその支援について」をテーマに、約1時間の講演を行いました。

(4)いわき常磐地区安全運転者協会・同安全運転事業主会合同研修会での後援会(平成23年1月26日開催) いわき常磐地区安全運転管理者協会、同安全運転事業主会からの要請により、交通事故被害者遺族で ある岡崎照子氏を講師として迎え、「人は幸せになるために生まれてきた」をテーマに70名の会員に対 し、約1時間にわたり講演を行いました。

# 「被害者支援自販機」設置の賛同者を求めています!!

ARRAROS ARTAROS A

既に自販機を設置されている方や新たに自販機設置をお考えの方で、「被害者支援自販機の設置」にご協力をいただける方は、是非ご一報ください。お待ちしております。

#### 1 寄付金及び振込方法

自販機の収益金の中から設置者と自販機業者との話し合いで寄付金の割合を決め、業者を通じて毎月当センター宛に振り込まれます。なお、現在ご協力を頂いている自販機業者は、「東北ペプシコーラ販売(株)」及び「ダイドードリンコ(株)の2社です。

#### 2 被害者支援自販機導入のメリット

(1)利用者等への被害者支援の必要性及び重要性を訴えることができます。



- (2)公益的活動である被害者支援を応援することにより、事業所のイメージアップに貢献できます。
- (3)格別の手数を煩わせることなく、賛助会費以外にも協力ができます。

#### 3 賛同事業者

現在、賛同いただいている設置者は、次の4社の皆様です。 相馬市の何シエネハモータース様、伊達市の伊達物産㈱様 いわき市勿来町の何勿来新聞サービス様、いわき市錦町の㈱大河内新聞店様

関係事業所の皆様に、心より感謝を申し上げますとともに今後のご支援・ご協力をお願いいたします。

### ~皆様方の温かいご支援に支えられて~

次の方々から賛助会員等としての会費及びご寄付を頂きました。心より御礼を申し上げます。当センターの活動は、皆様の温かいご 支援により支えられております。今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(1) 今期間賛助会員等のご紹介(平成22年12月1日~平成23年3月31日)

(順不同、敬称略)

個人									
福島方部 渡辺 毅	青田 尚志 黒須 英昭	<ul><li>黒津 和弘 髙橋</li><li>髙橋 徳行 服部</li></ul>	宏昌 信弘	本名 宗二 渡 柳沼 克紀 安		木村 進 生島 浩	小林 啓二	長命 修二	松本 光弘
福島北方部	大泉 一郎	大沼 英夫 酒井	芳子	伊達方	部	紺野 高	柴田 秀夫		
二本松方部	渡部日出夫	郡山方部		浦山 実 古	関 一也	寺田 秀雄	橋本 直弥	伊藤 正行	
郡山北方部	原 哲哉	矢口 憲							
<b>須賀川方部</b> 渡辺 大輔 渡辺 等	渡邉 征彦 石井 一 今泉 幸寿	大塚     修     木澤       苅宿     章     三瓶       菅野     渉     永山	巧 和紀 広之	二宮千代一 村i 穂積 成彦 渡i 村越 定 渡i	<b></b> 典子	味原 則雄 井上 直子	鹿股 宏之 菅野 向平	斉藤 勝 田子 淳一	野木 直人 松本 浩三
白河方部	長谷川 洋								
石川方部	宇都宮安典	菊池 時子 棚瀬	明子	南條ツネ子 吉	日 和子	影山 博	鈴木 正保	円谷ヨシ子	矢吹 寿子
棚倉方部	杉本 友彦								
田村方部       松澤     隆浩       村上     明       森     裕勝       山田     雅彦       吉辺     俊裕	秋元 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 一 大 一 大 一 大	小貫     博     今野藤       佐久間     布裁     佐佐藤       加藤     祐司     在佐藤       菊池     正可     左條藤       草野     邦也     朱衛       小室     昌充     命	重 憲武陽 敏則淳吉男介亮弘	鈴木     法勝       先崎     弘 改 哉       西     孝市       長谷部成夫     吉       長谷郡成夫     古       本間     千品	i 直 千 忠 剛 浩 美	安池石伊遠大渡 食田本藤藤平邊 水石伊遠大渡	小笠金管 雅子 大志晴春 彦豪 東 本	齋藤藤 佐佐藤 佐佐 佐藤 佐佐 佐藤 藤 佐佐 佐 佐 佐 佐 佐 佐 兵 清 本	新善武 圓橋 馬山内 忠

		重 桂子 久留死平 健一 佐藤	発克典 志賀 誠一 鈴木	直人忍	藤田星	賢治 大輔		勝夫 隆之	井手口 大山	梨恵子 隆	小石 佐藤	佐敏 憲仁	末永 髙橋	真也智幸	
本多 一郎		和田隆男 佐藤	公宣 丹野	明雄		貞衞		隆浩		美帆	角田	直樹	二瓶		
会津坂下方部	阿部由起夫	いわき中央方	<b>遠藤</b>	敏明		いれ	き東方部	邯	藤間	聖一					
いわき南方部	柏原 佑紀 長	尾 哲也													
法人・団体															
福島方部 福島トヨタ自動 <sup>‡</sup> (社)福島県自家用   (社)福島県タクシ	自動車協会	(社)福島県歯科	クラブ第2530地区が 外医師会 企業団体中央会	<b></b> ガバナー	(社)福息 (社)福息		運転管理 車整備振			社会	県商工会		社会福祉 [合会	協議	
伊達方部		(有)井上建材													
<b>二本松方部</b> 福島交通㈱二本村	松営業所	丸三木材株式	<b>式会社</b>		ふくし	まの酒桜	酒販代表	取締役佐萠	泰朋圭	二本	松地区警	<b>警察官友</b>	の会		
<b>郡山方部</b> 福島県中央遊技	業協同組合		申経科診療所協 助産協会福島県		(株)二男	嘉組				ライ	オンズク	ラブ国際	協会332-	- D地	
郡山北方部		郡山食品工業	<b></b>		郡山遠	遊技場組	合			宝化	宝化成機器㈱				
須賀川方部		すかがわ岩瀬	頭農業協同組合												
白河方部 西鄉村上下水道 西鄉村役場住民公 西鄉村役場建設	民生活課一同 西郷村立みずほ保育園					西鄉村役場農政課一同						(株)兼子組 白河消防署西郷分署員一同 西郷村会計室一同			
石川方部		朝日自動車鏨	<b></b>												
棚 <b>倉方部</b> 衛矢祭自動車整備	備工場	八溝運輸商	事株式会社		藤田廷	建設工業	(株)			福島県	<b></b>	核協同組合	連合会塙原	厚生症	
田村方部 田村地区安全運転 安全運転管理小!		(株)鈴船建設( 三春ロータ)	代)鈴木直綱 Jークラブ			運転管理 地区遊技	田村事業 場組合	主会			地区金融わらぎ		î犯協会		
会津若松方部 (株)会津丸水 三菱伸銅(株)若松(	製作所	秋山ユアビン 会津パッケ-			去人明精 内科小児	会会津西 科医院	会津信用金庫 会津美里警察官友の会								
猪苗代方部		関東水力工	事(株)会津支社		休暇村	寸裏磐梯									
<b>喜多方方部</b> 喜多方地区交通领	安全協会	会津いいで 喜多方地区	農業協同組合 安全運転管理者	劦会			融防犯協 通安全事			喜多	方市建設	没業組合	,		
南会津方部		(有)只見荘													
<b>いわき中央方部</b> いわき常磐地区3	交通安全事業主会		ヽイパーつばめ! 区安全運転管理		いわき	き常磐地	区交通安	全協会		常磐	開発㈱				
いわき東方部		(株)ハニーズ													
いわき南方部		㈱福陽自動車	<b>車教習所</b>		社会社		ハートフ	ルなこそ	<u>.</u>						
南相馬方部		日本デルモン	/ テ㈱福島工場		相馬ス	ゲス(株)									
<b>双葉方部</b> (株)つばめエージ 浪江地区交通安全		(株)コスモさ (株)東京エネ :					?・エナジー 運転管理	<sup>㈱福島総括事</sup> 型者協会	<b>事務所</b>		(海商事 地区警		かホール	広野	
相馬方部		(株)福島県東部	『自動車教習所												

(2) 今期間賛助会員等のご紹介(平成23年4月1日~平成23年6月30日)

(順不同、敬称略)

個人																
福島方部	朝倉	美菜	小野	哲也	北方	歌子	栗田	和俊	佐藤	淳	寺島	正	増子	一公	湯田	浩彰
福島北方部	廣木	康二	廣木	幸子	菅野	啓子	野口	博行								
郡山方部	松崎	絹		E	白河方部		鈴木	美紀夫		会注	聿若松方	部	武藤。	みや子		
喜多方方部	佐藤	元		しい	りき南方	部	山口	和哉	泉	卓馬	大竹	諒司				
南相馬方部	亀井	勝美		7	相馬方部		白石	弘一								
法人・団体																
郡山北方部				本旨	3地区出身	身警察'	官父兄会									
白河方部		福島県自家用自動車協会白河支部														

# 事務局からのお願い

今年度は、未曾有の大災害の発生により、当センターの活動財源の確保が大きな課題になるものと 思われます。県民の皆様には、賛助会費や寄付によりますご支援につきまして、従前と変わらぬご協 力をいただきますようお願い申し上げます。

# 愛の手で あなたをつつむ 被害者支援

# あなたは 考えたことがありますか?

# あなたやあなたのご家族、親しい方々が 犯罪や交通事故の被害者になったら あなたは どうしますか?

(社)ふくしま被害者 支援センターでは

- ◇電話相談・面接相談を行っています。
- ◇裁判所・警察・病院等への付き添いをします。
- ◇犯罪被害者等給付金の申請のアドバイスを行います。
- ◇弁護士会等の関係機関、団体と連携した支援を行います。
- ◇被害者支援の幅広い広報・啓発活動を行っています。
- ◇被害者同士の交流の場(自助グループ)を提供しています。

# 賛助会員募集中

当センターは、皆様の会費により運営されています。

#### 年 会 費

- ○個 人…1口 2,000円ょり
- ○法人・団体…1口 10,000円より

福島県公安委員会指定「犯罪被害者等早期援助団体」 (社)ふくしま被害者支援センター

〒960-8002 福島市森合町14-6 第二福島トヨタビル2F (福島中央郵便局向かい) TEL/FAX 024-533-7830

※なお、「ご寄付」については、金額は問いません。

# (社)ふくしま被害者 支援セシターの活動

#### 相談・支援受付時間

月曜日〜金曜日(午前10時〜午後4時) 祝祭日、年末年始を除きます。

※面接相談・直接的支援は要予約

相談は無料です。秘密は厳守します。

相談電話 024-533-9600

#### ◇編集後配◇

「3.11東日本大震災」。すべての時間が停止してしまった。

国難とも言える災害の中で、どうすればよいのか、何かできることはないのか・・。そんな中、あづま総合体育館避難所での被災者支援活動は、一抹の不安を抱えながら「被災者や避難者の方々の気持ちを一日も早く和らげ、平静さを取り戻すためのお手伝いをしたい。」との強い想いから、震災1ヶ月後の4月11日に「被災者支援相談コーナー」を開設・活動を始めました。

現在、支援活動は4ヶ月目に入りましたが、当該活動に賛同いただいた多くの支援員とともに、一日も早い被災者の方々の生活再建と被災地の復興を信じ、誠心誠意、支援活動を行ってまいります。

今後とも、当センターへの温かいご理解とご支援をお願いいたします。

また、一方では、当センターの活動の礎ともなる活動資金の確保が欠かせませんが、本年は、その確保が大変厳しくなるものと予想されております。

被害者支援の大切さにご理解をいただいている皆様による活動資金面からの支援援助を、切にお願い申し上げます。